



かわらばん

良城小 URL: <http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/>

良城小学校
学校だより 9月号
児童数 806名
令和元年 9月2日

来年度から県内すべての公立学校がコミュニティ・スクールになります

校長 増野 淳一

夏休みが終了し、いよいよ2学期が始まります。一段とたくましくなった子供達とともに、もっともっと楽しくてたまらない学校づくりを進めていけることをうれしく思います。

さて、夏休みは様々な教員研修があり、新たな見識を深める大変貴重な期間でした。

その1つとして、今後の良城小での地域連携教育を進める上で大変参考になる研修がありましたので、以下に3点ほどお示しいたします。

1 来年4月から、県内全ての小・中・高・総合支援学校がコミュニティ・スクールになる。

3年前に県内の全小中学校がコミュニティ・スクールとなりましたが、いよいよ県立の高等学校と総合支援学校もコミュニティ・スクール化が整い、県内全ての公立学校がコミュニティ・スクールとなります。

学校をコミュニティ・スクールとしていくことは、これからの学校の進むべき方向として法制化(努力義務)されていますが、山口県では全国に先駆けて全ての学校がコミュニティ・スクールとなります。この「『全ての』学校」というのが大変重要なポイントで、市や町、学校、教職員による取組の差があってはならない、県内全ての学校で目指していかなければならないことを示しています。

2 学校運営協議会の委員は、保護者と地域住民の意見を「公式」に学校運営に反映させる大変重要な役割と権限をもっており、協議会の一層の充実が求められている。

本校では、市教委から任命された保護者と地域代表の13人の委員さんと学校長で、学校運営協議会を年6回行っています。この協議会は、良城小の学校運営の在り方や学校の取組(授業・教育活動)について、それぞれの立場で意見を出し合い(熟議)、共に地域の子供達の教育に当事者として参画していただく大変重要な場です。

本校でも、本年度からこの協議会に学校の教育目標に連動した知徳体の三部会を設定して熟議を行うようにしました。

今後、それぞれの分野で、具体的な連携活動が進むものと期待しています。



3 学校を大人の「学びの場」としても位置づけ、大人の生きがいの場所としていくことこそが、本県の学校の地域貢献である。

学校の「地域貢献」とは、児童生徒や職員がボランティアなどで地域活動に関わることを指すものではありません。

これまで、様々な授業の支援を行っていただけていますが、これを単なる「支援活動」ではなく、目標を共有して子供の育成を協力してとむに行うという「協働活動」であると捉えていく必要があります。

学校で子供達のために一緒に活動することは大人の学びにもなり、それが生きがいにもなっていく。単なる授業支援にとどまらず、さらに学校内に大人が多様に学ぶ場を設け大人が学ぶ姿に子供達が直接触れ、あこがれを持つような場面を増やしていきたいと思います。

本校もここまで「地域とともにある学校づくり」に努めてきましたが、まだまだ課題は多いと改めて感じました。吉敷だからこそこのコミュニティ・スクールを目指し、これからも着実に取組を進めてまいります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。